



大阪大学山岳会 会報

No.26

2024年10月

発行 大阪大学山岳会

〒562-0031 箕面市小野原東4-19-45

大野義照方

山岳会創立75周年記念集会開催

記念集会実行委員会 奥山宏臣

大阪大学山岳会創立75周年記念事業の一環として記念集会を開催した。実施に際しては理事会の下に実行委員会を設け、数度の実行委員会での検討を踏まえ、以下の要領で実施した。

日時：2024.6.15（土） 13:30-17:30

会場：大阪大学銀杏会館(大阪大学吹田キャンパス)

第一部 13:30-15:00 (司会進行 奥山)

1. 開会挨拶 (大野)
 2. 山岳会の75年を振り返る(50年まで大野、75年まで明神)
 3. 戦前の阪大にかかわる登山組織の活動(山田)
 4. 海外登山報告 (P29 田中、アプサラサス 藪田、サンゲマルマル 松尾)
 5. 現役の活動報告 (高岡、石井)
 6. グレートヒマラヤトレイルの報告・紹介 (畑、大西)
 7. 高田邦雄元副会長(会報担当) 感謝状贈呈
- 第二部 15:40-17:30

講演1 尾川とも子氏(司会 杉原)

講演2 和田城志氏(司会 稲垣)

懇親会 17:45-19:00 (司会進行 明神)

銀杏会館内のレストランミネルバ

<記念集会報告>

2024年6月15日当日は、午前中には阪大 wall お披露目もあり、OBの方々も wall クライミングを体験された。12時より大阪大学山岳会総会が開催され、記念集会は13:30より銀杏会館で開催された。参加者は54名(OB 36名、現役18名、他)と関西だけでなく遠方のOBにも参加してい



ただいた。現役部員も18名と多数の参加があった。総会後の懇親会には43名(OB 28名、現役13名、他)が参加し、講演していただいた尾川氏や和田氏も加わって、個別に歓談くださり、終始賑やかな雰

囲気となった。

第一部では大野会長の挨拶後、大野、明神が1949年6月大阪大学全学山部発足以来75年間の活動の歴史を報告。黒部を中心とした山行から海外登山へと展開した活動が報告された。明神は2010年には部員1名となり廃部危機となって以降の経緯を紹介。2012年阪大 wall 完成(吹田体育館)、スポーツクライミングの興隆とともに、阪大ウォールが起爆剤となって新入部員が増加した。スポーツクライミングが主流となったが、登山指向の部員も増えつつある現状を報告した。

山田は1949年阪大山岳会誕生の前史を詳細な資料を調査して報告。母体は戦前まで遡り、大阪医科大学(阪大医学部の前身)山岳部、旧制浪速高等学校山岳部など。内容は75周年記念誌「温故起新」として発刊し、参加者に配布された。

海外登山報告として、P29 田中、アプサラサス 藪田、サンゲマルマル 松尾がそれぞれ報告した。

現役の活動報告は高岡(リーダー)、石井(元リーダー)が行った。今年度の部員は、学部生36、大学院生4、留学生5の合計45名。活動内

容は阪大 wall クライミング、外岩遠征、wall コンペ、5 月新歓登山、沢登り、冬山登山などを紹介した。

グレートヒマラヤトレイル 2023 の報告を畑、大西が行った。

実施日 2023 年 10 月 28 日－11 月 14 日

メンバー：大西啓之、科野昌蔵、畑秀信

第一部の最後に、長年にわたって会報を作成された高田邦雄元副会長に大野会長から感謝状および記念品が贈呈された。

第二部は外部講師による記念講演を実施した。

講師は現役の要望で、日本人女性初のプロクライマーである尾川とも子氏、もう一人は国内では釧路大滝の完登やヒマラヤの高峰に足跡を残した登山家、和田城志氏（大阪市立大山岳部 OB）にご講演いただいた。

現役からは、尾川さんの「日常生活でもクライミングの動作を意識し、行っている」という話や、和田氏の「山に登る理由や意義はいらない。ただ、目の前にきれいな山があるから、居心地がいいから登る。」といった内容に感動を受け、これからの活動に生かしていきたいとの感想があった。



講演会終了後の記念写真（二列目中央が大野会長、その右が和田城志氏、その右が尾川とも子氏）

記念誌も発刊

記念集会にあわせ、75 周年記念誌も発刊された。記念誌は記念事業の主題である「温故起新」と名づけられ、(その 1) として阪大山岳会の創立以前の阪大に関わる諸学校の山岳部（旅行部）の記録を蒐集・記録したものである。記録のほとんどは当時の山岳雑誌「ケルン」の外、(公社) 日本山岳会の会報、機関誌「山岳」、大町山岳博

物館発刊の「北アルプス登山史資料」、戦前の「関西学生山岳連盟報告」、に掲載されたもので、日本山岳会、大町山岳博物館のものについては、転載の快諾を得ている。

本誌は記念集会出席者に配布し、不参加の会員には郵送されている。

また、記念講演された、尾川氏、和田氏および日本山岳会、大松山岳博物館には贈呈している。

グレートヒマラヤトレイル (GHT) 準備山行報告

(今年から始まる GHT のため 2023 年に行った事前の準備山行の報告記録)

【参加メンバー】

大西 啓之 (L) (60)、畑 秀信 (62)、科野 昌蔵 (64)

【山行期間】

2023 年 10 月 28 日から 11 月 15 日 (19 日間、山中は 11 日間)

【概要】

グレートヒマラヤトレイル (以下、GHT) の東端の視察とネパールのトレッキング事情の把握を目的に海外登山を行った。

今回のトレッキングは Tembas Nepal Trek &

Expedition 社を旅行代理店に、同社の斡旋するガイド AMRIT Kumar Rai とポーター 2 人のサポートにより行われた。ポーターが日中の不要荷物を持つので個人のザックは水、地図、防寒着、雨具、カメラ他で 5kg 前後だった。

トレッキングは Tamor 川に沿ってジャングル的な樹林帯から始まり、Ghunsa 手前から Kambachen にかけて針葉樹の森林帯に変わる。そこから上は森林限界を超えて荒涼とした世界になった。ルート の道はよく整備されていて歩き易かったが Kambachen より上では土砂崩れの堆積跡を横切るところが数か所あり落石等には警戒が必要だった。

山中で宿泊した Tea House は板を打ち付けただけの小屋で、隙間が無数にありよく風が通り寒い。4000 m を越えると唯一ストーブのある食堂でも寒く感じた。食事は好み次第だが上るにつれて味付けがはっきりしてくるようになってきた。ダルバートのほか焼きめしや麺類などが提供される。宿泊地点の中間あたりにも Tea House は点在していて昼食やお茶や水（お湯）の補給をした。

ネパール全域でガイドなしでの登山活動が今年の 4 月から禁止されたことで、信頼できるパートナーとしてのガイドおよび旅行代理店を見つける

ことも今回の大きな目的だった。参加メンバー全員が次回もガイドは AMRIT に、旅行代理店は Tembas Nepal Trek & Expedition 社に頼みたいと心から思える出会いとなり幸運に感謝したいと思う。

【現地同行スタッフ】

ガイド：

AMRIT Kumar Rai 48 歳、マカルー山麓の Seduwa 村の出身。日本人トレッカーを専門にガイド歴は 20 年。仕事のため 2 度の来日経験あり。日本語きわめて堪能で温厚。

ポーター：

KARMA Sherpa 45 歳、Kanchenjunga 山麓の農夫。Sherpa 族間以外では寡黙。

PARCHANT Rai ガイドと同郷の 22 歳。父は元ガイド（怪我のため廃業）。日本での就労希望を持つ。

【行動記録】

旅行代理店の判断で入山地までのアプローチに国内フライト (Kathmandu—Bhadrapur) を使ったこと、Nango La 視察後の宿泊地を Ghunsa から Phale まで下げたこと以外に行動計画に変更はなかった。科野は疲労から Kanchenjunga North B.C. と Nango La の視察を見送った。

	日付	天気と朝の気温 括弧は室内気温	概要
1	10 月 28 日 (土) 29 日 (日)	晴れ	空路 Kathmandu に到着。許可証の手配中は市内観光と薬の購入にあてて。29 日晩には旅行代理店 Temba 社長宅で合同の歓迎食事に参加する。
2			Hotel Holy Himalaya 2 泊
3	10 月 30 日 (月)	晴れ	国内フライトで Bhadrapur へ。そこから専用車で Taplejung へ (9 時間)。Taplejung Mountain Hotel 1 泊
4	10 月 31 日 (火)	晴れ	専用車にて Sekathum (1,576m) へ (5 時間)。ここから山中は Tea House に泊まる。
5	11 月 1 日 (水)	晴れ (16℃)	Sekathum 7:20 出発, Phedi (2,020m) で昼食休憩 (11:00-12:30), Amjilosa (2,308m) 14:00 到着
6	11 月 2 日 (木)	晴れ (11℃)	Amjilosa 7:30 出発, Gyabla (2,730m) 12:20 到着, 昼食後に裏のゴンパ周辺を散策する。
7	11 月 3 日 (金)	晴れ午後曇り (6℃)	Gyabla 7:20 出発, Phale (3,140m) で昼食休憩 (10:50-12:30), Nango La 分岐 13:05, Ghunsa (3,590m) 14:30 到着
8	11 月 4 日 (土)	晴れ夕方降雪 0℃, (3℃)	Ghunsa 7:50 出発, タルチョ 旗めく 3,900m ほどの丘まで高地順応のため登り滞在 (9:30-10:45), Ghunsa 11:50 に戻る
9	11 月 5 日 (日)	晴れ午後曇り - 4℃	Ghunsa 7:30 出発, Labuk (3,797m) で昼食休憩 (10:40-12:00), パクタンルン (3,892m) 12:15, Kambachen (4,100m) 14:30 到着
10	11 月 6 日 (月)	晴れ午後曇り	Kambachen 8:00 出発, Khado 滝 10:00, Ramdang (4,596m) で昼食休憩 (11:20-12:30), Lhonak (4,785m) 14:40 到着
11	11 月 7 日 (火)	晴れ - 13℃	大西、畑で Kanchenjunga North B.C. アタック Lhonak 5:30 出発, Kanchenjunga North B.C. (5,143m) 10:20 到着, 写真撮影後 10:45 出発, Jorkyu (5,035m) で昼食休憩 (11:20-11:50), Lhonak 14:30 到着 科野はポーター 1 人を伴い 5,000m 地点までピストン

12	11月8日(水)	晴れ午後曇り - 14℃, (- 8℃)	Lhonak 9:15 出発, Kambachen で昼食休憩 (10:50-12:00), パクタンルン 13:10, Labuk 13:40, Ghunsa 16:20 到着
13	11月9日(木)	晴れ時々曇り	大西、畑で Nango La 視察 Ghunsa 6:05 出発, Nango La 分岐 6:35, 4,500m 天場 10:50, Nango La (4,776m) 12:00 到着, Phale 15:35 到着 登りは 1,200m でこの日が最長の行動時間となった科野は別行動で ポーター 2 人と Phale に往路を戻る
14	11月10日(金)	晴れ	Phale 7:50 出発, Gyabla 10:20, Tangyam (2,405m) で昼食休憩 (12:10- 13:25), Amjilosa 15:15 到着
15	11月11日(土)	晴れ	Amjilosa 7:50 出発, Sekathum 11:50 到着
16	11月12日(日) 13日(月) 14日(火)	晴れ	往路を逆にたどり Kathmandu へ。その後予定通りのフライトで日本へ。 Taplejung, Hotel Blue Star 1 泊 Kathmandu, Hotel Holy Himalaya 1 泊 翌 15 日帰国



Kambachen の Tea House の建物



Jannu 7,711 m (現地名 Kumbhakarna)



初日は吊橋で Tamor 川を 4-5 回渡る



Kanchenjunga North B.C. に到着



Kanchenjunga 氷河
土砂に蔽われていて最初は全く気付かない



Kanchenjunga 山塊 (右) と Jannu (左)

【来年以降の課題】

来年から6年間でGHTの踏破を計画している75周年記念事業のプロジェクトは一定のレベル以上の体力と技術を持った参加メンバーの確保と養成が重要である。様々なチャンネルを通じてプロジェクトの内容を知らせることと興味を持った参加希望者の体力・技術を養成する体制を考える必要がある。

参加メンバーのレベルにもよるが今回のような空

荷に近い形ではなく自分たちである程度荷物を持って行動するトレッキングスタイルについて検討したい。そのための体力強化、日本での高度順化、テント山行に備えた装備や隊の編成の検討が必要と考える。ルート上のピークアタックを含め踏破計画全体の行程・スケジュールの見直しを逐次行っていくことも重要である。

(記：科野)

山岳部活動状況

2023 年度総括

2023 年度主将 北島魁十

本年度は、昨年度までの新型コロナウイルスの蔓延による活動制限が解除され、大阪大学山岳部としての活動を滞りなく行うことができました。山岳会の皆様には本年度も様々な面で部としての活動を支えていただき、大変感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。

2023 年度の主将として、年度の始まりに大きく分けて三つの活動計画を掲げました。その中で特に力を入れたものが、部としての活動を増やし形骸化した山岳部を改めて部たらしめることでした。まず年度初めのサークルオリエンテーション及び新入生勧誘活動にて、ピラ配布のみならず阪大 wall や外部施設でのボルダリング体験会や長野県の白馬岳への新歓登山など積極的な勧誘活動を行いました。それにより、近年では最多となる12名(2023年5月時点)の新入生が入部することになりました。多くの新入部員が入部したことにより、夏季長期休業明けには新入生を対象にしたボルダリングの部内コンペを開催することができました。

夏季休業中には毎週末に外部のボルダリング施設へ行き、部員のボルダリング技術の向上を図りました。またOBの方達とともに赤ナメラ沢や赤木沢(北アルプス)での沢登りも行うことができました。また新入部員とともに京都の笠置ボルダーへ赴き、新入部員にとっては初めてとなる外岩体験やキャンプを行いました。

下半期には外岩での活動に力を入れ、多くのボルダーでロッククライミングを行いました。10

月には兵庫県の武庫川ボルダー、奈良県の御手洗ボルダーへ、11月には四国の徳島西ボルダー及び奥吉野ボルダー、夏季休業中にも訪れた京都の笠置ボルダーへ行きました。また12月には東京で開催された安全登山サテライトセミナーへ2名の部員が参加し、登山技術の知識の習熟を行いました。年度末には最後の大きな活動として、昨年度に引き続き追い出しコンペを阪大 wall にて行いました。本年度は2名の先輩部員がご卒業されました。

振り返ると、本年度は今まで以上に活動が増え、部としての規模も大きくなった年になりました。次年度はこの勢いをなくすことなく、新主将とともにさらなる大阪大学山岳部の活性化につなげていきたいと思います。最後になりますが、山岳会の皆様には次年度も引き続き阪大山岳部の活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024 年度活動計画

2024 年度主将 高岡真成

2024 度の主将を務めることになりました高岡です。今年度はサークルオリエンテーションをはじめとした様々な新歓活動により、留学生を除くと新たに14名の部員が入部してくれました。これは山岳会の皆様を含めた様々な人の協力のおかげであるため、大変感謝しております。昨年度は、明らかにこれまでよりも部としての規模が大きくなり、活動も活発になったため、その勢いを無くすことなくさらに大きくしたいと考えています。今年度の活動計画として大きく3つの目標を掲げています。その3つは「山岳活動の活性化」、「ク

ライミングの意欲向上」、「リードクライミングの普及」です。

1つ目の「山岳活動の活性化」は、特に今年度入った新入部員の多くが山岳活動に興味をもっているため、すでに沢登り等を数回行うことができ、今後も今まで以上に活発な山岳活動を行う予定です。以前まではOBの方々と行くことがほとんどでしたが、部員も増えたため部員のみでの山岳活動も行えるようになり、より主体性のある山岳活動を行おうと考えています。

2つ目の「クライミングの意欲向上」は具体的にボルダリングに力を入れて達成しようと考えています。ボルダリングは、山登り・沢登り・リードクライミング等のクライミング全般における基礎的な技術を習得しやすく、そこからクライミングの様々な活動につなげることができます。このボルダリングの意欲を向上させるために、昨年同様新入部員を対象としたコンペを開催する予定です。また、外部ジムに依頼して今までにない阪大

wallの課題セットや、個人セッターにも依頼してまぶし課題（様々な色や形のホールドが壁全体にまぶされている状態の中から、ホールドをいくつか選び、作る課題）のセットをしてもらおうと考えています。

3つ目の「リードクライミングの普及」はこれまで部員の中にリードクライミングをする人が極端に少なく、部としてのリードクライミングは行っていないでした。しかし、今年度はリードクライミングに興味がある部員が多数いたため、今年度この目標を掲げました。この達成のためには、ビレイの習得が必須となるので、経験者による外部ジムでの実践的な練習や、阪大 wallでの基礎的な知識の習得を予定しています。

この他にも昨年度と同様に、追い出しコンペや、ボルダリング大会の出場等はしていく予定です。これらの目標を達成するべく部員一同頑張っていきますので山岳会の皆様には今年度も私たちの活動のご理解とご協力よろしく願いいたします。

山行等活動記録 (2023.4 ~ 2024.3)

赤ナメラ沢 (広島県)

【期 間】2023年8月6日 日帰り山行

【参加者】石井、河原、東条 (OB)、大西 (OB)

【記 録】

8月6日 晴れ時々曇り

6:30 入山 (小瀬川と赤ナメラ沢の合流地点)

8:00 ザイル訓練

8:30 折返し地点着

10:30 下山 (小瀬川と赤ナメラ沢の合流地点)

ザイル訓練内容

急な沢を登ることを想定した訓練。ザイルをハーネスにつけ、沢を登っていく。

川の水位：通常通り

【感 想】

石井

初の沢登りを無事に終わることができてよかった。沢登り中、OBの方々のアドバイスは非常に勉強になった。特にトップロープによる滝の登攀、はスリルが有りながらも、充実感があった。天気も崩れることなく、楽しくて有意義な1日であった。次回の赤木沢でも活かしていきたい。

河原

OBの方々のご協力のもと、怪我なく沢登りを終えることができて本当に良かった。天候にも恵まれ、沢で泳いだり、飛び込んだりと存分に楽しむことができた。また足場の見つけ方や歩き方、ロープ訓練、岩の知識など非常に勉強になり、本当に良い経験をさせてもらったと感じた。

【反省点】

石井

・初の沢登りで独特の歩き方に慣れるまでに時間がかかった。また、シュリングの付け方に手間取ったので改善していきたい。

河原

・ハーネスや食器といった重大な忘れ物が多かった。人に任せていればよいというような甘えが感じられた。数日前から準備して、きちんと確認を怠らないようにするべきだった。

・ロープワークの練習が今後必要であると感じた。現状8の字ぐらいしか身に付けておらず、実践する機会が少ないためか、他のロープワークをあまり習得できていない。いざという時のために、様々なロープワークを使いこなせるようにしていきたい。

黒部川赤木沢

【期 間】 2023 年 8 月 19 日～ 21 日

【参加者】 石井、河原、大西（OB）、奥山（OB）

【記 録】

8 月 19 日 晴れ時々曇り

7 時 30 分 折立登山口 発

9 時 15 分 三角点

11 時 45 分 太郎平小屋

12 時 30 分 薬師峠キャンプ場（幕営地）

8 月 20 日 晴れ時々曇り

4 時 30 分 薬師峠キャンプ場 発

5 時 00 分 太郎平小屋

6 時 30 分 薬師沢小屋

8 時 00 分 赤木沢分岐

8 時 10 分 ウマの沢分岐

9 時 45 分 大滝

13 時 00 分 赤木岳

13 時 30 分 北ノ俣岳

15 時 00 分 太郎平小屋

15 時 20 分 薬師峠キャンプ場（幕営地）

8 月 21 日 晴れ時々曇り

5 時 20 分 薬師峠キャンプ場 発

5 時 50 分 太郎平小屋

7 時 45 分 三角点

9 時 30 分 折立登山口 着

ルート状況：晴れが続き、地面は乾いていた。ぬかるみもなく、歩きやすい道のりだった。

【感 想】

石井

天気も崩れることなく最高の天気で沢登りができて本当に良かった。沢登り中は奥山先生に先導をしていただき、高巻きの技術やルートを選ぶ大事さを学ぶことができた。また大西さんからは前回の沢に引き続き、岩の持ち方や踏み方を教わり、岩選びの重要性を理解した。学んだ技術を活かして、是非とも、来年後輩と沢登りに行く機会があれば、自分が先導していきたい。

河原

今回の山行は天気も気温もちょうど良く、歩いていて本当に気持ちよかった。特に赤木沢は、水面に陽の光がキラキラと反射していて、とても綺麗だった。OBの方々からは沢登りの先導、高巻き、ルートファンディング、岩の見つけ方、掴み方など多くのことを学ばせてもらった。今後もより経験を積んで、技術を磨き、縦走などにも挑

戦していきたい。

【反省点】

石井

・本格的な登山道もあったので、沢靴以外に持ってきたのはマリンシューズだけで、足の負担が大きく疲労が溜まりやすかった。次回は、ハイキングシューズや運動靴を持っていこうと思う。

・また、荷物も多くなってしまったので、食料以外は必要なものだけに留めておけるようにしたい。

河原

・幕営地から出発する際にパッキングが遅れてしまった。もう少し先を見据えて、予め考えておくべきだった。

・沢をへつる際に、足を滑らせ沢に落ちかける場面があった。しっかり持ちやすい石、置きやすい足の置き場を確保して、進むべきだった。

・荷物を持って行き過ぎた。次回は着替えを肌着だけにするなど、軽量化に努めたいと思う。

荒島岳（福井県）

【期 間】 2024. 1. 6～17

【参加者】 奥山、草尾、大西、東條、野口、石井（現役）、斎藤（医学部山岳部）

【記 録】

1/6 曇のち雨

大阪から車で勝原（かどはら）スキー場跡まで移動。

勝原スキー場跡 11：12 - 深谷ノ頭 13：52 - 幕営地 14：15

序盤は疲れが溜まっていなかったので、快調に移動できた。一方で、新雪が多く、足跡が少なかった。深谷ノ頭を少し過ぎた地点の森間地帯で、テントを2張り張った。新年会ということで、鍋パーティーをした。

1/7 雪

幕営地 7：03 - シャクナゲ平 7：39 - 荒島岳 9：40 - シャクナゲ平 11：03 - 深谷ノ頭 12：09 - 勝原スキー場跡 13：50

朝から雪が降っている中、テントを残したまま、頂上へアタックした。シャクナゲ平の辺りで、アイゼンを装着した。森間を抜け尾根に登攀したときは、風も強く霧も深かったため、注意して移動した。しかし、荒島岳の頂上は、あいにくにもガスっており、何も見えなかった。下山中も雪は止

まなかったが、問題なく下山できた。(記:石井)

熊野古道小辺路

小辺路は高野山から熊野本宮大社に通じる熊野古道のひとつ。今回は麓の九度山から高野山に上る町石道と繋げたコースを石原さんと歩いてみた。総距離 85km、上り 5,956m、下り 5,936m、(YAMAP 活動データより) とても疲れました。

【期 間】2023.4.16～20(4泊5日)

【参加者】石原、科野

【記 録】

4月16日(日) 晴れ/曇り 7:29 九度山駅出発-7:50 慈尊院-8:49 展望台-11:04 ニツ鳥居-12:28 笠木峠-13:59 矢立茶屋-16:36 大門、ゲストハウス泊

南海電車の九度山駅に集合、慈尊院までは道路沿いを歩く。院には高野山の根本大塔そっくりのお堂があるが人影はなかった。ルートの町石道の由来は1町(約109m)毎に石柱が建てられているから。町石を確認しながら登るのはニツ鳥居くらいまで。矢立茶屋からは小辺路に繋げたことを後悔しながらようやく大門に到着。近くのゲストハウスに宿泊。営業中の食堂がほとんどなく晩はコンビニ弁当。

4月17日(月) 曇り 7:10 出発-8:32 薄峠-9:49 大滝集落-11:41 水ヶ峰-13:37 平辻-14:38 大股-16:15 萱小屋跡、避難小屋泊

高野山を少し歩いてから小辺路に入る。林道並みのよい道に行く。前日に高度を稼いでいるので登りは少なめだが、お昼を過ぎると疲労感がでる。大股でゆっくり休んでから本日最後の登りに。避難小屋が利用できるようなので一晩お借りする。私有の小屋でとてもキレイ(薪ストーブ、飲み物(有料)あり)。

4月18日(火) 晴れ/夜雨 6:38 出発-8:41 伯母子峠-10:52 弘法大師座像-12:58 三浦口-14:12 吉村家跡-16:19 三浦峠、テント泊
朝の元気なうちに伯母子峠(ここにも避難小屋あり)を越え、三浦口までは長い下り。途中、道の整備をされている地元のご夫婦と言葉を交わす。数日前に道迷いから行方知れずの登山者がいるとか。雲行きが怪しいため三浦峠の東屋の中にテントを張る。

4月19日(水) 曇り時々小雨/夕方から雨 6:53 出発-8:04 五輪の塔-9:34 西中 <バスで昂まで移動> 10:54 昂出発-11:50 果無集

落-13:59 観音堂、テント泊

小雨混じりの中、西中までこれも長い下り。疲労もだいぶ蓄積しており、幸いにもバス便があったので西中一昂はバスで移動。大いに助かる。昂の先の柳本橋から果無峠までが小辺路最後の登り。途中の果無集落に人影なし。バスのおかげで目的地の観音堂に予定より早く着くことができ、最終日にそなえて休養。

4月20日(木) 晴れ 7:20 出発-8:14 果無峠-11:11 八木尾-11:37 道の駅奥熊野古道ほんぐう-13:30 熊野本宮大社

雨は夜明け前には上がって果無峠手前でキレイな雲海を見ることができた。最終日は半日行程なので気分的には楽だが、脚は思うようには出ない。八木尾からはしばらく道路を歩く。終点の熊野本宮大社は裏手より境内に入り参拝。正面の参拝用の長い階段を下りて無事小辺路を完踏した。

(記:科野)

サンチャゴ徒歩巡礼

井上 太一

【期 間】2023.8.30～10.30

【参加者】井上、妻

【記 録】

昨年の秋に三度目のサンチャゴ巡礼を実施しましたので報告します。これまではスペイン国内だけ900km歩いたのと違い、今回は、フランス国内の徒歩巡礼を主として計画し、かつ初めて妻と歩くということでかなりの準備をしました。まず、2年前の秋に、京都三条大橋から日本橋まで旧東海道五十三次500km強を妻と15日かけて歩き、妻には体力が相当あると自信を持ちました。

2023年8月30日フランスの南東部に位置するルピュイを出発し、スペイン国境手前のサンジャンピエドポーまで、自然豊かというか自然しかない巡礼路を27日間750km歩き通しました。気温は出発日の朝の9℃から炎天下の34℃まで体験し、山と森と牧草地の高原が連続して続き、毎日高尾山を3,4回登っているような過酷な歩きでしたが、毎日のように日の出と日の入りを拝み、放牧された牛を見つつ歩き、夜は天の川や満天の星を眺める贅沢な旅でした。また季節が秋だったこともあり、野生化したイチジク・リンゴ・ブラックベリー・プラム・クルミ・栗そしてブドウ等が食べ放題だったのは嬉しい誤算でした。スペイン



ピレネー越え（バックはフランス）

と違い、巡礼者は少なくかつ白人ばかりで、途中であったアジア人はたったの二人でした。パリと違い多くのフランス人は我々巡礼者に親切で、多くの人が日本を夫婦で旅行したときの写真を嬉しそうに見せてくれました。四国巡礼や熊野古道巡礼者も多くて驚きでした。ある夫婦は富士山山頂とモンブラン山頂の写真を見せてくれました。宿舎は、巡礼者用の Gite（ジット）で数人から二十人位が相部屋で泊り、二食付きで二人 90 ユーロ位です。オーナーの準備した夕食を、巡礼者が飲み放題のワインを飲みつつ、おしゃべりしながら二時間位かけていただきます。NHK の毎日フランス語を半年聴いていましたが、あまり会話ができず、携帯の Google 翻訳ソフトが大活躍でした。

サンジャンピエドポーからピレネー越えをしてスペインに入りました。コロナ禍が済んだせいかやたらと世界中からの巡礼者が多く、巡礼宿のアルベルゲが満員で困ったことも多くありました。また、インドネシア人やタイ人などこれまで来なかったアジア諸国の巡礼者も多く、アジアが



サンティアゴコンポステーラ大聖堂（巡礼終り）

豊かになったと実感しました。なかでも韓国人が日本人の数倍どころか数十倍も歩いていて、皆さん片言の日本語で話しかけてくれるのには驚きでした。もちろん全員英語ができます。フランスではだれにも会わない日もあったのに、スペイン路は、前後に延々と人がいて、挨拶も億劫になりました。日程の都合上バンプローナからレオンまで 400km をバスでバイパスし、レオンから巡礼を再開しました。350km を 15 日間かけて歩き目的のサンティアゴ・デ・コンポステーラに 10 月 10 日無事着きましたが、この日も宿探しに 1 時間費やしました。

今回は合計 1100km 強、万歩計では 1224km を 42 日間歩き、一日 16km から 40km、日平均で 7 時間 7 分・29km 歩き、長旅にもかかわらず、脚と体のトラブルは全くなく、1000 時間ずっと一緒に妻もご機嫌で、予想外に収穫の多かった巡礼でした。ただ、観光地トレドの一日観光で気が緩んでいたせいか、担いでいたザックから日本札などを掏られました。ホテルで初めて気づいた如くプロの仕事でした。最後に人はなぜ巡礼するのかを述べます。「日常生活を離れ、異空間で非日常体験をして、自らの生き様を振り返り、今後の生き方を模索し、リセットする。」炎天下を一日歩き、宿で荷を下ろしシャワーを浴び、ミニスーパーで冷えたビールを買い、公園の木陰で飲むと、もう至福のひと時です。会員の皆さまにもサンティアゴ巡礼をお勧めします。

会 員 近 況

（総会案内の返信はがきに記載されているものを転載しています）

野田憲一郎（経 1960 卒）

右手不自由で報告は簡単にします。2020 年の脳卒中後、ハイキング復帰を目指すも道半ばです。

兼清喜雄（工 1960 卒）

一応元気でほとんど毎週軽登山、2～3 回 / 月でゴルフにはげんでいます。

白井達郎（工 1962 卒）

高齢のため最近ひどい腰痛が出て動きがとれない状態になり困っています。何とかだましだましやっっていこうと思っています。皆様のご健康を祈ります。

横尾秀次郎（工 1964 卒）

今年は、まだ登っていない中央アルプスに行く予定。お花畑を歩いてきます。

吉川信也（理 1965 卒）

今年 1 月に、交叉点で少し走りましたら派手に転倒してしまい、足腰の老化に驚かされました。これではハイキングもできなくなるのでは心配になり、毎日 1 時間はウォーキングに励んでおります。幸い、論文執筆作業がまだ残っており、相変らずメ切に追いかけています。

畑中 薫（医 1969 卒）

C 型肝炎にかかりましたがウイルス除去に成功し、肺癌で右肺上葉切除を受けました。去年はペースメーカーを埋め込まれ、元気に暮らせてもらっています。最新医療の恩恵を受け、大感謝です。今は藍野病院で精神保健指定医の業務のみに従事しています。今年 4 月から医師の働き方改革が行なわれ、土曜日の勤務が無くなり、週 2.5 日の勤務となりました。他にはキリスト教会での日曜礼拝と週 1 回の太極拳教室に通っています。

皆様お元気で！

黒田治朗（医 1969 卒）

今年傘寿を迎えます。替りがいないので、まだ週 2 回医者をしています。膝痛があっても出来るゴルフは続けています。クラブ競技では、ハンデキャップがあるものの、若い人と競うのは仲々大変です。エージシュートを目指していますが、100 歳位になるかもしれません。頑張って生きています。

鹿野信吾（理 1971 卒）

6 月始めにフランス・シャモニーに 1 週間行って参りました。写真で見た風景が広がり感激しました。ゴンドラ・リフトを使っの散策でしたが、岩と雪、氷河の景色に圧倒されました。

明神 知（基 1978 卒）

6 月 15 日の総会で副会長を拝命しました。微力ですが、スポーツクライミングとアルパインの融合と新卒・若手 OB の入会促進などに組みたいと思いますので、ご協力お願いします。 とは言え、来年 3 月まではリモートの活動となることをお許しください。昨年度は定年延長で大学院研究科長でしたが、今年度は退職して科目担当の特任教授を 1 年間勤めて来年 3 月に神戸に帰ります。前職のオーグス総研を退職して北海道の 9 年間単身赴任していますが、最後の 1 年間はヒグマに注意してスキーや登山を楽しみたいと思っています

ます。

後藤正教（法 1979 卒）

コンバインが駄目になり、自分自身の体調も不調となり、毎日自宅回りの畑の草取ばかりとなっております。心臓弁膜症？のせいか、息が切れてばかりです。

訃 報

No.25 までに掲載されていなかった方についても本号にて掲載しています。

東 雍 氏

2022.6.11 逝去。医学部 1955 卒。医学部卒業後、インターンをへて微生物研究所に勤務。その後阪大医療技術短期大学部教授を歴任されていました。

現役時代は夏、冬、春の合宿に精力的に参加されていた記録が残っています。

土屋 直 氏

2023.8 逝去。経済学部 1954 卒。住友金属工業に入社、同社専務を歴任されていました。

合宿が主力の山行をされていますが、冬の穂高にも行かれています。

岩永 剛 氏

2023.9.2 逝去。享年 92 歳。医学部 1955 卒。阪大病院第二外科、大阪府立成人病センター（現大阪国際がんセンター）に勤務されていました。

医学部も山岳部も東氏と同期でした。

辻 光弘 氏

2024.2.8 逝去。経済学部 1964 卒。巽商店を経て貴金属宝石卸業を自営。

家業の都合で、3 年以後はあまり山へは行かれていないようでした。

編集後記

会報担当の黒岩氏が諸般の事情で本年 1 月に退会したため、今回、会報の編集作業を行うことになりました。

今年度は 75 周年記念事業の実施年でもあり、この記念集会を掲載すべく、編集作業の開始を遅らしたため、発刊が大変遅くなりましたことをお詫びいたします。

（山田）